

無責任エッセー 旅のハジの書き捨て

福崎かずたろう

あ、しかしなんだな、ハラへってきたな。岡山まであと1時間か。しんどいなー。ハラへったなあ。岡山では駅そば食って弁当買って次の列車に乗る事にしよう。

(はじめて読まれる方へ：この連載は本年の3月号まで実に6回にもわたって続いた長寿連載の続きです。内容は著者が海を渡ってソ連・ヨーロッパ・中国を列車で訪れるという壮大なものでした。今回は日本に帰ってきた著者が山陽本線に乗って大阪へ向かっているところからです。解説終わり。ほんまかいや?)

進行と逆の方向に陽はかなり傾いていて、黄砂で汚れた列車の窓はオレンジ色の乱反射で溢れている。春の斜陽は日に日に強さを増すようだ。

広島からの列車を2時間50分間乗って岡山で降りた。次は姫路行きだ。

百戦錬磨の私は、荷物を次ぎに乗る列車の1座席に置いて席を確保したや否やその身は既にホームの端のうどん屋の前にあった。ここできつねうどん280円を食い、岡山名物『祭ずし』610円とお茶を買い込み、一目散に列車に戻った。

車内は短い時間の間に満員状態になっており、扉の付近にはずんぐりした屈強な若い女性達がたむろしていた。地味な制服からしておそらく各種学校の生徒であろう。こういった人たちは、「もろ田舎娘」か「ド派手な化粧をしたヤンキーねーちゃん」かにきっぱり分けられるのですぐ分かる(←偏見!)

彼女らは、後から入ってきて、さっさと席に座る私に対して、一瞥して「ふん、なにさ」と言いたげなように感じた。しかしそんなもんにかまってはられない。大阪まであと3時間。

しかしこれだけ混んでいるとさすがに弁当は食えない。先ほどのうどんが消化各器官を活動を促してしまったので、かえって空腹感が増したように思える。や

はり弁当は空いているローカル線で、「鳶がくるりと輪を描く」ような長閑な景色を眺めつつ食うもんだよなあ。山陽本線乗車率120%では食えんわな。

最近禁煙が巷のブームのようで、無煙家の私としてはたいへん有り難い。以前は禁煙車が列車の一番端っこに1両だけあって、わざわざ乗りについていたが、この列車では喫煙車が端っこの1両である。ええ事だ。ところで急に思い立ったのだが、列車に付いているBOX型の吸いながら入れにネズミ花火や爆竹を仕込ませておくと面白いと思う。きちんと火を消さずに捨てるとう煙とともに大音響が車内に轟くという……、迷惑なだけですな。

和気を過ぎた。しかしいまだに客は1BOXに3人はいて、扉付近の横座りのイスにも人がいる状態である。これでは駅弁はひろげられない。岡山でうどんを食っただけであり、これは、オードブルを食べたあとでおあずけを喰ったような、あるいは和食なら口取をつまみつつ、お酒を一口ぐいとやった状態で待ったを掛けられたような、苦しい状況である、おそらく体内では消化器官のぜんどう運動開始・消化液ドバドバ・早よメシ来んかい、という状態であろうなあ。

ということでついに姫路まで弁当が食えんかった。しかも向かいの親父は、少し空いてきたのをいいことに、こちら側に足を投げ出して寝てしまうわ、その足は臭いわで大変だった。

親父さん、食欲を減退させてくれて、どおもありがとうございます。

姫路では1分乗り継ぎである。しかもホームが違うためこれは大変な乗り継ぎであると言えよう。姫路到着とともに、ドアから数人の若人がダッシュを掛ける。別に競うほどではないにしても私も必死で走った。

無事に乗れた。空いている。

ようやく弁当体制に入った。さあ、やっと岡山の弁当が食えるぞお！

食ったあ！あまり旨くはなかった。が、とりあえず腹は満たされた。するとつまり当然のごとく眠くなってきた。外は真っ暗だし。じゃ、今から寝ます。全国64万の読者の皆さん、おやすみ、じゃね。